

表紙について 出石神社 (出石町宮内)

地元では「いっきゅうさん」と呼び親しまれている出石神社。御祭神は、八種類の神宝である伊豆志八前大神《いずしやまえのおおかみ》と神羅の王子天日槍命《あめのひほこのみこと》。現存する最古の歴史書である『古事記』や『日本書紀』に登場します。

昔の但馬は泥水で覆われていました。天日槍命は円山川の河口に流れをせき止めていた岩を見つけ、所持していた剣で切り刻んで取り除き、泥水を日本海に流して但馬の平野をつくられたのでした。

天日槍命が岩を取りのぞき、意気揚々として神社のある宮内へ帰るときの様子を今に伝えているお祭りが「幟(のぼり)まわし」です。端午の節句に行われています。

但馬国の一宮にも位置づけられ、但馬地方では代表的な古社の鳥居も長年の雨風により腐食が著しくなり補修が検討されていました。

多くの方々の御尽力・御協力をいただき、昨年、鳥居が「根継ぎ」(柱の下部の腐った所を新しい材に取り換えて補強する)工法で修復されました。

また、鳥居の補修工事と同時に鳥居横の大杉は倒木の恐れがあったため伐採されました。

樹齢260年、樹高は約30メートルの大きな杉の木でした。(農業委員 川崎 重雄)



大杉の切株



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円 (送料、消費税込)

\*お申し込みは

農業委員会事務局または、  
地元の農業委員・推進委員  
まで

編集後記



農委だより第62号は私たちが担当しました。

- 後列左から 田中委員、尾藤委員、北村委員、  
鳥尾委員、川崎委員  
前列左から 平野委員、平峰委員、井谷委員、  
谷口委員

現在、米の需給バランスの崩れから米価が高騰し、米の適正価格を巡り論議をかもしだしています。政府が米政策を減反から増産へ大幅な方向転換を表明した結果、令和7年度産は需要をはるかに上回る生産量となりました。増産体制が続けば、今度は暴落の危険性が危惧されます。難しいとは思いますが、生産者は需給バランスを見据えた売れるブランド米等を生産する必要があります。

肥料・機械等、農業資材の高騰が続くなか、生産者米価の基準となる全国JAの概算金価格提示も昨年と比較し大幅に高くなり、米生産者はやっと持続可能な農業が見通せるとの声を聴きます。

消費者も、ブランド米・普通米・ブレンド米・輸入米・備蓄米等多様なニーズに合った選択肢も拡がりました。生産者・消費者共に、価格の共有ができるようになればと思っております。

近年の異常気象が頻発するなかで、農業・農村は、地球環境を正常化するための多面的機能を有していることを皆さんが理解して、農地利用最適化の推進と耕作放棄地解消の協力体制を構築する必要があります。終わりになりましたが、本紙発行にご協力いただいた方々へ感謝申し上げます。(編集委員長 井谷 勝彦)